

大学コンソーシアムあきた平成20年度事業実績書

会務の経過

月 日	会 議 等
19年度 <参考>	
20 . 3 . 4	運営委員会 < 来年度事業計画、事業報告、決算見込報告 >
20 . 3 . 27	理事会 < 運営委員会検討状況報告、理事長の異動に係る取扱いの確認 >
20年度	
20 . 4 . 16	監査 < 平成19年度事業内容の審査及び会計監査 >
20 . 4 . 22	第1回理事会 理事長の異動に伴う理事長の選出 平成19年度事業報告及び決算報告の承認 平成20年度事業計画及び予算の決定
20 . 5 . 7	運営委員長との打ち合わせ 各事業の進め方に関する協議 各部長の指名及び付託事項の確認 大学主導による運営に関する意見交換 (競争的外部資金応募による運営委員会ワーキンググループ設置)
20 . 5 . 20	第1回運営委員会 戦略的大学連携支援事業への応募に係る協議 ワーキンググループの設置に係る協議
20 . 7 . 22	第2回運営委員会 戦略的大学連携支援事業への応募報告 高大連携授業の実施状況報告 連携公開講座の参画者及び構成状況 第5回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムへの参加
20 . 8 . 28	運営委員長、両各部長打ち合わせ 戦略的大学連携支援事業の実施組織・体制等に係る事前協議 戦略的大学連携支援事業の協定締結に係る事前協議
20 . 9 . 17	第3回運営委員会 戦略的大学連携支援事業の実施計画、共同実施に関する協定締結 あきた教育の日制定による協賛催事 受講者アンケート結果による高大連携合同意見交換会実施計画
20 . 11 . 6	秋田県内高校と大学・短大による連携のための合同意見交換会
20 . 12 . 25	平成21年度各事業予定における科目提供依頼 < 文書通知 > 高大連携授業(従来型・単位取得予約型(フロンティア4A通知による)) 連携公開講座 社会人講座 中大連携授業 サイエンスプラザ 単位互換授業

大学コンソーシアムあきた 平成20年度会務の経過

月 日	会 議 等
21. 1. 18	運営委員長、両各部長打ち合わせ<メール協議> 来年度事業計画(事業展開の方向)に関する協議 構成機関異動、大まかな事業構成 プロジェクト4Aの事業展開に伴う謝金の取扱い
21. 1. 20	第4回運営委員会 今年度収支決算見込みの説明 来年度事業計画(素案)・収支予算(素案)の協議 委員出席が2機関のため、資料送付による意見提出協議に切替
21. 3. 10	大学間連携推進事業等の状況視察来訪者(大分大学教職員) プロジェクト4A及び大学コンソーシアムあきたの活動内容 大学の連携、協力状況、地域社会への還元状況
21. 3. 13	第5回運営委員会 第5回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの報告 平成20年度事業進捗状況及び収支決算見込みの報告 平成21年度事業計画案及び収支予算案の協議 役員任期満了に伴う理事長選出の取り扱いの確認 平成21年度各委員の推薦依頼
21. 3. 30	第2回理事会 運営委員会における検討状況について 理事長の異動に係る取扱いについて

21年度<参考>	
21. 4. 13	監査<平成20年度事業内容の審査及び会計監査>
21. 4. 下旬	理事会 理事長の互選、監事の選出、運営委員長の指名 平成20年度事業報告及び決算報告の承認 平成21年度事業計画及び予算の決定

第5回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムについて

テ ー マ : 「地域における学術・文化の創造と情報の発信を目指して
- 産学官民の連携による大学コンソーシアムの形成 - 」

開催日時 : 平成20年12月13日(土) ~ 14日(日)

会 場 : 名古屋大学(名古屋市)

参 加 者 : 全国各地の大学コンソーシアム関係者(名簿配布なし)

参加者数 : 全体参加数 335名(講師含む)

第1分科会	100名	第4分科会	64名
第2分科会	120名	第5分科会	96名
第3分科会	62名	第6分科会	38名

出席者：大学コンソーシアムあきた

吉岡 尚文（運営委員長・秋田大学副学長）
 森 宏一（教育研究部会長・秋田県立大学理事）
 勝又 美智雄（地域貢献部会長・国際教養大学教授）
 佐々木 厚（プロジェクト「4A」コーディネーター・秋田大学）
 武田 さやか（カレッジプラザ・スタッフ）

12月13日（土）：1日目

基調講演「持続発展する豊かな地域作りを目指した産学官連携」

社団法人中部経済連合会会長 川口 文夫 氏

...中部経済連合会の中期活動指針を示しながら、中部地域における産学官連携の事例紹介と更なる産学官連携の推進の必要性について講演。...

シンポジウム

シンポジスト 文部科学省生涯学習政策局長 清水 潔 氏
 株式会社中日新聞代表取締役会長 白井 文吾 氏
 (財)大学コンソーシアム京都副理事長
 / 龍谷大学・短期大学部学長 若原 道昭 氏
 中部経済連合会会長
 / 中部電力株式会社代表取締役会長 川口 文夫 氏
 コーディネーター 愛知学長懇話会世話人（代表幹事）
 / 名古屋大学総長 平野 眞一 氏

...シンポジストがそれぞれ講演を行い、会場からの質疑に応答する形式で進行。...

文部科学省生涯学習政策局長 清水氏「これからの高等教育政策について」

...高等教育を取り巻く現状と課題、これらを踏まえた今後の高等教育政策についてを講演。...

<ポイント>文部科学省の高等教育に対する方向性

教育研究活動の推進と各大学の自主的な判断による多様化・機能分化を目指す
 これからは「学士力」を学生がきちんと身につけているかどうかが見られる

株式会社中日新聞代表取締役会長 白井氏「地域に生きる産学連携」

...「マスメディアから見た大学教育について」「地域づくりと産業界・大学などとの連携」の二つのテーマにもとづいて講演。在学中に一般教養と社会常識、そして考える力を学生に身につけさせて欲しいなどの要望が出された。...

(財)大学コンソーシアム京都副理事長 若原氏「財団法人大学コンソーシアム

京都の過去・現在・未来～設立からこれまでと第3ステージに向けて～」

...大学コンソーシアム京都の設立背景から今までの活動とその到達点を紹介し、今後の活動プランの方向性を紹介。...

<ポイント>

設立の主旨が「大学のまち京都」「学生のまち京都」のブランド力構築。

大学が連携を行うことにより様々なメリットを学生・産業界・地域・行政に提供することにある。大学にとっては教育研究の質向上とその成果を地域に還元するというのがメリット。1998年に法人格を取得。45の大学・短期大学と京都市、経済4団体の50の団体が連携した今日の財団法人大学コンソーシアム京都となった。2009年には当財団の活動拠点である「大学のまち交流センター」が建設された。

現在の事業推進体制について

6つの事業部に分かれている。財団予算のうち、事業実施のための予算は約2億3000万円、職員は出向職員21名、嘱託職員12名、臨時職員7名の合計40名。

財団の第3ステージと位置付け

2009年からは財団の第3ステージと位置付け、プランのキーワードを「質の向上」「選択と集中」「国際性・地域性」の3つとした。費用対効果も考慮し、事業の削減と重点化を大胆に行いリニューアルをする予定。各大学で行えることは各大学で行い、コンソーシアムだからこそ、という事業を前面に出すことにし、連携の強みを発揮できる事業、大学の枠を越えて参加できる事業、京都の魅力を創出し発信できる事業などに特化する。

例えば、学生の海外留学では通常は大学と海外の大学が協定を結び個別に送り出しと受け入れを行っている。これをコンソ対コンソの面対面で協定をし、学生にとって更に海外留学がしやすく、今まで海外の大学と連携できていない大学の学生も留学が容易にできる環境を構築したい。

更に外部資金の積極的な獲得、国や行政の資金獲得に向けたプロジェクトや、国行政の情報を収集して積極的に活用を行うなど、従来にない総合的で包括的な取り組みを計画している。

第3ステージのスローガン

第3ステージのスローガンは「世界に誇る『大学のまち』・『学生のまち』京都」。これまでの点と点の連携を面と面の連携に広げ、全国に先駆けた連携プログラムの開発や京都独自の新しい連携構築を目指す。そのためのフレームワークとして次の6点を考えている。

- a. 地域性を活かした大学間連携による教育の質の向上と様々な教育プログラムの展開
- b. 「大学のまち京都」をリードする学生の発掘
- c. 教育力向上のためのFD、SD事業の充実と地域ネットワークの推進
- d. 加盟大学と短期大学の個性、魅力を活かした規模別、分野別、地域別、等々のミニコンソーシアムの形成
- e. 京都全体のひとつのキャンパスと捉える「京都ワンキャンパス」の国内外への発信
- f. 「京都高等教育研究センター」での共同研究による京都の魅力の追求

中部経済連合会会長 川口氏（基調講演講師）

...産業界からの提言として学生が身につける専門度を高めて欲しいということと、若いときから生涯的な目標を持って欲しいということを講演。...

文部科学省からの情報提供について

「大学、短期大学等の連携への支援について」

文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 今泉 柔剛 氏

...今後文部科学省が目指したい方向性と大学連携の重要性について（今後は全ての大学がどこかのコンソーシアムに関わっている形を目指す、などの発言があった）述べた後、新制度「共同学部・共同大学院」の説明及び平成21年度も引き続き行われる「戦略的大学連携支援事業」について説明があった。...

<ポイント>

共同学部・共同研究科制度の概要

国公私立の設置者の枠を越え、複数の大学が集まり一つの共同教育課程を編成するという制度である。その教育課程を修了すれば、構成している複数大学連盟による学位が授与される。

今後のスケジュール

平成21年3月1日施行。認可申請を受け付ける

平成21年 秋 申請の認可予定

平成22年4月 共同学科・学部の開設

イメージ(抜粋)

- ・構成大学(2~4大学)は一つの大学が開設する授業科目を、その他の大学の教育課程の一部とみなして、同一内容の教育課程(共同教育課程)を編成
- ・共同教育課程のみを実施することは不可。構成大学はそれぞれ124単位の大学として教育研究をしていることが前提条件
- ・学生は各構成大学が開設した授業科目の単位をそれぞれ一定数以上取得
- ・共同学科等の課程を修了した者には構成大学による連盟の学位を授与
- ・国内大学のみを対象、国外大学との共同設置は考えていない
- ・大学と短期大学などのように異なる学校種間での共同開設は考えていない(同一学校種間の共同)

戦略的大学連携支援事業の概要

平成20年度から開始した事業だが、引き続き21年度も行っていく。基本的には20年度と同じ内容だが、予算要求としては20年度より50億円増の80億円で計上している支援件数も新規採択。70件を含む110件(20年度は54件・344大学が採用された)に増加していく計画である。21年度の概算要求のポイントとして連携による教育の質保証強化への取り組みを重点支援する。

全国大学コンソーシアム協議会運営委員会報告

...全国大学コンソーシアム協議会事務局より、昨年度の第4回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの収支、同協議会運営委員会の開催、同協議会への新規加盟の報告、また、来年度の研究交流フォーラムについての案内があった。...

2007年9月以降の新規加盟については「相模原・町田大学地域コンソーシアム」、「大学コンソーシアムやまなし」が加盟承認済み、退会については「ひょうご大学連携事業推進機構(発展解消)」が退会承認済み。運営委員の辞任・承認については大学コンソーシアムやまがたの中村三春氏が辞任、特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアムの難波美都利氏、キャンパスコンソーシアム函館の楨殿肇氏が就任。

来年度の第6回フォーラムは函館市で9月12日(土)~13日(日)の開催予定。

第3分科会「教員免許状更新講習の円滑な実施に向けて ~現状と課題~」

...平成21年度からスタートする教員免許状更新講習のモデル的プログラムの開発や試行を実施した事例の発表と文部科学省より試行の現状と本試行についての説明が行われた。...

報告1 大学コンソーシアム長崎 「多くの離島を抱えた県における教員免許更新講習」

- ・長崎県は南北に広く、また、離島を多く抱える県である。特に離島の教員が更新講習を受ける際には受講負担が大きい。そこで、大学コンソーシアム長崎の事業(単位互換事業)とその経験を基礎に新たなシステムを構築し教員免許更新講習を実施した。

報告2 大阪教育大学 「大阪教育大学における教員免許更新講習の実施」

- ・大阪教育大学での教員免許更新講習の実施活動の紹介

報告3 社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩 「ネットワーク多摩及び加盟機関の事例」

- ・教員免許更新講習のテーマを定め、テーマ毎にネットワーク多摩加盟大学の教授陣が担当した。テーマの元に各大学がテーマに沿った講座を出し合う形。対象の小学校・中学校・高等学校教員が学校の種別に関わらず混ざり合う形で行った。
- ・八王子セミナーハウスの講習の紹介。短期集中合宿形式の講習紹介。
- ・桜美林大学の講習紹介。eラーニングによるオンデマンド講習

12月14日(日): 2日目

第6分科会「コンソーシアムの組織運営について」

...組織の概要、事業、日常的な運営方法、現状の課題等が2つのコンソーシアムから発表された。コーディネーターと討論者からこの報告を例示として全国のコンソーシアムが抱える問題が提示され、これに対して発表者、討論者、会場から意見が出された。...

報告団体 特定非営利法人・大学コンソーシアムやまなし
大学コンソーシアムひょうご神戸

討論者 南大阪地域大学コンソーシアムコーディネーター 難波美都里 氏
コーディネーター 教育ネットワーク中国代表幹事 広島修道大学教授 市川太一 氏

報告1 特定非営利法人・大学コンソーシアムやまなし

「『特定非営利法人・大学コンソーシアムやまなし』設立の経緯と現状の課題」

...内閣府、文部科学省の受託事業をうまく受けて事業を展開している様子。事務局内に、県・コンソーシアム・構成機関(大学、短大)を取り持つコーディネーター1名がいる。...

- ・山梨県内の12大学、短期大学を会員に2年前に特定非営利法人として設立。それぞれの大学の学部内容は重ならない。事業の種類は9つ。 情報交換・交流・発信事業、 調査等受託事業、 単位互換事業、 生涯学習事業、 高大連携事業、 インターンシップ事業、 学生交流事業 留学生支援事業、 図書館連携事業
- ・平成20年度の単位互換事業ではコーディネート科目2科目を含む129科目が提出され、64名が履修している。この単位互換事業を利用し、平成18年度には内閣府都市再生本部の「全国都市再生モデル調査」に応募。平成19年度には「単位互換による学生の大学間移動を起点としたまちづくり事業化方策検討」調査が実施された。
- ・学生の大学間移動に伴い公共交通機関の乗り換えや待合いのための学生が集まる場ができ、それを調査することにより、公共交通機関のあり方や中心市街地における新たなまちづくり事業化について検討を行うことなどが目的。
- ・高大連携事業は大学入試センターと共催して、対象を山梨県内高等学校の進路指導担当者とする大学ガイダンスセミナー、山梨県内の高校生と保護者を対象とする大学ガイダンスセミナーを開催している。高大連携授業は実施していない。
- ・コンソーシアム内の5大学が連携して「地域アカデミー」講座を開設している。

報告2 大学コンソーシアムひょうご神戸 「発足から2年6ヶ月」

...加盟団体は35法人、34大学・10短期大学。7つの委員会を設け、各校が各委員会に入っている。各委員会の委員長が主体になって委員会を運営。拠点となる場所がなく、事務所をどこで構えるのが問題。スタッフ3人がいるが、専任ではない。...

2つの報告を通して浮かび上がった問題点とそれに対する意見

財政面について(自治体、産業との連携の難しさ)

(問題点) 主な収入源は構成機関の年会費や県の補助金だが、県の補助金が打ち切られるところが多く、財政面が脆弱。

(意見1) 「受託事業に取り組む」

討論者の難波美都里氏が南大阪地域大学コンソーシアムの取り組みを紹介。

設立当初にあった堺市からの補助金がなくなり設立基金300万円のみになった。

事業を展開すると必要な人手を確保することができない。そこで、大学の研究者を資源と捉え、各大学の研究者が地域の課題、例えば「環境」「子育て」など、に対して何ができるか企画書をコンソーシアムで考え、行政側や地域に提示。これを元に受託事業を獲得している。現在では行政のよろず相談所的な立場に。こうした事業展開でキーパーソンになるのがコーディネーター。各大学の研究者を熟知し企画の提案を行っている。

(意見2) 「大学の設立で地域に若者が」

大学が設立されたことで若者が地域に入り活性化された。また、コンソ自体も地域の活性化を考えた事業を展開している。行政・企業が補助金や協賛費を出すのは当然では？

大学コンソーシアムの知名度の低さ

(問題点) 地域社会(県民、事業者等)が大学コンソーシアムの存在やその活動内容などを充分に知らない。

事務局体制が脆弱、活動拠点がない

(問題点) 事務局体制が脆弱。各事業の実施においてスタッフの不足などからきめ細やかな対応が困難。また、事業の企画立案から実施までにおける各構成機関と事務局の役割分担が不明確。

学内の問題、コンソーシアム構成組織間の問題

(問題点) 構成機関である大学の教職員、学生にも大学コンソーシアムの存在やその活動内容などが充分に知られていない。大学間の事業参加への温度差もある。競合する大学が連携している場合も多く、学内でコンソーシアムの活動に賛同が得られにくい。

(意見1) コンソーシアムの名前のみが前面にでて、自大学の名前が出にくくなると大学からの反発は大きい。各大学の名前が出るように広報等で工夫をしている。

(意見2) 事業によって連携する・しないを行うことにより、問題が解決するのではないか。

(意見3) 学内の知名度の低さをカバーするためには、各大学で教員がコンソを通じて学外で貢献活動を行った場合に、インセンティブを与えることが有効だと思う。

< 参考 >

第6回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

< 平成21年9月12~13日・函館市 >

大学コンソーシアムあきたが発表する分科会は以下のとおり

地域連携・社会貢献分科会(コーディネーター:日本福祉大学総長・学長室 愛知学長懇話会 刈田芽生氏)

仮題「あきたの社会人向け講座運営の工夫」

コンソーシアムの組織運営分科会(コーディネーター:広島修道大学法学部教授 市川太一氏)

仮題「あきたの組織運営と今後の展開方向」

単位互換授業

秋田県における大学、短期大学及び高等専門学校間の 単位互換に関する協定及び授業の運営状況

1 協定参加機関

	機関名	協定期間	H14.3.27～	H15.10.9～	H19.4.1～
			(4年制3大学で実施)	H19.3.31	H22.3.31
1	秋田大学		参加	参加	参加
2	秋田県立大学(県大短大部含む)		参加	参加	参加
3	国際教養大学				参加
4	ノースアジア大学(旧秋田経法大)		参加	参加	参加
5	秋田看護福祉大学				参加
6	秋田公立美術工芸短期大学			参加	参加
7	秋田栄養短期大学			参加	参加
8	聖霊女子短期大学			参加	参加
9	日本赤十字秋田短期大学			参加	参加
10	聖園学園短期大学			参加	参加
11	秋田工業高等専門学校			参加	参加
12	放送大学秋田学習センター				
13	秋田職業能力開発短期大学校				
	計		3	9 ⁽¹⁾	11

2 科目提供の状況

	機関名	17年度		18年度		19年度		20年度	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	秋田大学	63	61	86	50	68	56	66	58
2	秋田県立大学(本荘C)	105	84	110	105	122	110	118	115
3	秋田県立大学(秋田C)	67	50	70	60	75	71	205	77
4	国際教養大学					73	89	61	49
5	ノースアジア大学*	78	23	44	46	44	40	40	27
6	秋田看護福祉大学						4		10
7	秋田県立大学短大部	22	11	8	3				
8	公立美術工芸短大	7	8	7	8	6	8	6	12
9	秋田栄養短期大学	30	17	4	1	4	5	6	2
10	聖霊女子短期大学	11	6	5	6	5	6	5	5
11	日本赤十字秋田短大	3	3	5	4	6	4	6	2
12	聖園学園短期大学								
13	秋田工業高等専門学校	12	4	10	3	4	6	4	5
	計	398	267	349	286	407	399	517	362
	うちカレッジプラザ開講	(2)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)

*17年度～18年度前後期は秋田経済法科大学の提供科目数

3 履修登録者の状況

年度・期	実人員	科目延べ人数	科目数	協定
平成20年度・後期	9	21	13	19.4.1~ 11大学等
〃 前期	10	10	4	
平成19年度・後期	8	13	7	
〃 前期	5	8	7	
平成18年度・後期	8	9	4	H15.10.9~ 10大学等
〃 前期	7	7	3	
平成17年度・後期	13	13	10	
〃 前期	14	15	7	
平成16年度・後期	16	36	24	
〃 前期	6	10	10	
平成15年度・後期	1	2	2	H14.3.27~ 3大学
〃 前期	4	6	6	
平成14年度・後期	2	2	2	

4 最近の履修科目の状況

平成20年度 履修登録者内訳

<前期>

秋田大学	県立大学	4人	動物遺伝資源管理学
ノースアジア大学	栄養短大	1人	ホスピタリティ入門
聖霊短大	秋田大学	4人	社会と家族A
聖霊短大	秋田大学	1人	教育学 A

のべ 10人4科目(実人員10人)

<後期>

教養大	公立美短	1人	デザイン計画概論
ノースアジア大学	栄養短大	1人	ホスピタリティ入門
聖霊短大	秋田大学	1人	法律を考えるB
聖霊短大	秋田大学	1人	日本国憲法A
聖霊短大	秋田大学	2人	障害と共生 B
聖霊短大	秋田大学	1人	人権と共生 B
聖霊短大	秋田大学	2人	社会と地域B
聖霊短大	秋田大学	2人	秋田の自然と文化 B
聖霊短大	秋田大学	1人	哲学の世界
聖霊短大	秋田大学	2人	大学生活と学習 B
聖霊短大	秋田大学	2人	医学と健康 B
聖霊短大	ノースアジア大学	3人	刑法の基礎
聖霊短大	公立美短	1人	デザイン計画概論
聖霊短大	公立美短	1人	プロダクトデザイン概論

のべ21人13科目(実人員9人)

平成19年度 履修登録者内訳

<前期>

聖霊短大	秋田大学	1人	国際社会を考える
聖霊短大	秋田大学	1人	生活者の科学 A
聖霊短大	秋田大学	2人	天体観測入門
聖霊短大	秋田大学	1人	地球の環境と資源 A
聖霊短大	秋田大学	1人	芸術と文化
聖霊短大	公立美短	1人	東洋工芸史
聖霊短大	公立美短	1人	西洋美術史

のべ8人 7科目(実人員5人)

<後期>

県立大学	秋田大学	1人	地球の環境と資源 B
県立大学	秋田大学	1人	地球の環境と資源
聖霊短大	秋田大学	1人	地球の環境と資源 b
聖霊短大	県立大学	1人	水文学
聖霊短大	ノースシア大学	5人	商品と流通
聖霊短大	ノースシア大学	3人	日本の観光地理
聖霊短大	ノースシア大学	1人	地理学の基礎

のべ13人 7科目(実人員8人)

平成18年度 履修登録者内訳

<前期>

県立大学	秋田大学	1人	日本国憲法 B
聖霊短大	秋田大学	1人	心理学
秋田大学	県立大学	3人	動物遺伝資源管理学 <u>集中講義</u>
経法大学	県立大学	1人	"
聖霊短大	県立大学	1人	"

のべ7人 3科目(実人員7人)

<後期>

聖霊短大	秋田大学	3人	法律を考える B
聖霊短大	秋田大学	1人	日本国憲法 A
聖霊短大	秋田大学	2人	心理学
聖霊短大	秋田大学	3人	障害と共生 B

のべ9人 4科目(実人員8人)

平成17年度 履修登録者内訳

<前期>

秋田大学	県立大学	1人	醸造プロセス工学
秋田大学	県立短大	1人	動物行動学 <u>集中講義</u>
秋田大学	経法大学	2人	保険法、親族相続法
聖霊短大	秋田大学	4人	芸術鑑賞論
県立短大	経法大学	1人	現代経済事情～就職活動の経済常識～
県立大学	秋田大学	5人	食生活の科学(秋田の食) <u>集中講義</u>
県立短大	秋田大学	1人	食生活の科学(秋田の食) <u>集中講義</u>

のべ15人 7科目(実人員14人)

<後期>

県立大学	県立短大	1人	野生動物論
栄養短大	秋田大学	1人	社会と家族B、
栄養短大	秋田大学	1人	現代日本人に見られる生活習慣病B
栄養短大	秋田大学	1人	現代の感染症B
栄養短大	秋田大学	1人	栄養の分子生物学B
聖霊短大	秋田大学	2人	心理学
聖霊短大	秋田大学	3人	文化の中の音楽
聖霊短大	秋田大学	1人	生命の連続性
聖霊短大	秋田大学	1人	動物たちの生殖戦略B
聖霊短大	秋田大学	1人	心身障害学概説

のべ13人10科目(実人員13人)

5 カレッジプラザの開講科目(コーディネート科目)

平成20年度実績

	科目名・提供大学等	開講時期、受講者数等
1	動物遺伝資源管理学 県立大 生物資源科学部 (担当: 稲元民夫教授)	集中講義 20.6.7~20.7.19の各土曜日 全14コマ 学生23名(県立大学生)、他大学生4名 外部講師招聘 大学コンソーシアムあきた聴講生3名

平成19年度実績

	科目名・提供大学等	開講時期、受講者数等
1	動物遺伝資源管理学 県立大 生物資源科学部 (担当: 稲元民夫教授)	集中講義 19.6.3~19.7.15の各日曜日 全14コマ 学生31名(県立大学生) 外部講師招聘 大学コンソーシアムあきた聴講生3名

平成18年度実績

	科目名・提供大学等	開講時期、受講者数等
1	動物遺伝資源管理学 県立大 生物資源科学部 (担当: 稲元民夫教授)	集中講義 18.8.6~18.8.9の連続4日間 全15コマ 学生24名(県立大学生、うち大学院生2名) 外部講師招聘 特別聴講学生5名(秋田大3名、経法大1名、聖霊1名)

平成17年度実績

	科目名・提供大学等	開講時期、受講者数等
1	現代経済事情 ~就職活動の経済常識~ 秋田経法大 経済学部 (担当: 白川欽哉助教授)	前期土曜(2コマ)13:00~14:30、14:40~16:10 全8回・2単位 5月/14、21、28、6月/4、11、18、25、7月/2日 学生10人、教員8名が担当
2	食生活の科学(秋田の食) 秋田大学 教育文化学部 (担当: 長沼誠子教授)	集中講義(8月6~9日)15コマ 特別聴講学生6人 大学コンソーシアムあきた聴講生5人

大学コンソーシアムあきた職員研修事業 秋田県内高校と大学・短大による連携のための合同意見交換会（概要）

1 目的

高校と大学・短大等による連携が進んでいる状況を踏まえ、大学コンソーシアムあきた高大連携授業をはじめとする相互の連携の一層の活性化を図るため、高校・大学の関係者が一堂に会し協議等を行う場を設けた。会議には、秋田県教育委員会、各公私立高校、秋田県学術国際部及び大学コンソーシアムあきたからそれぞれ参加し、意見交換を行った。

2 開催日時等

- (1) 日時 平成20年11月6日(木) 13:30～15:00
- (2) 会場 カレッジプラザ
- (3) 出席者 別紙参加者名簿のとおり
- (4) その他 会議に先立ち、事前に高校及び大学等に高大連携授業に関するアンケート調査を実施した(4頁以降に集計結果)

3 意見交換会の概要

会議においては、高校と特定大学との間で取り組まれている高大連携授業、秋田県教育委員会が主催するアカデミックトライアル授業、大学コンソーシアムあきたの高大連携授業などのこれまでの取り組みを振り返り、また、今年度から開講している秋田県教育委員会主催の「高校生パワーアップ推進事業『土曜講座』」など高校生を取り巻く状況を整理しながら、相互の情報交換や意見交換が行われた。

また、平成20年度戦略的大学連携支援事業に採択された「プロジェクト『4A』-連携による知のベース構築と『秋田戦略学』の展開-」の中で、高大連携授業などの連携授業も掲げているため、「プロジェクト『4A』」の事業説明を行い高校側の協力を求めた。

「プロジェクト4A-連携による知のベース構築と『秋田戦略学』の展開-」について

「秋田の中等教育を支援する」: 活動内容の5つの柱のひとつとして高校生・中学生向け授業の開講等の中等教育・高等教育連携を掲げる

- ・今までの高大連携授業スタイルを改変。回数を7回へと増やし、成績評価を行うことで県内大学(プロジェクト4A参画校)に入学時に単位として認める方向で計画を進めている。(既存の高大連携授業=回数5回。成績評価を行わず、過半数の授業に出席した場合、修了証書を渡す。)
- ・プロジェクト4Aの参加機関8大学にe-learningシステムの導入と使用環境の整備を推進。e-learningを通して、高大連携授業を行うことも考えている。

意見交換会のポイントは次のとおり。

高大連携授業の単位認定について

- ・プロジェクト4Aでは単位取得予約型の高大連携授業の開催を想定している。
- ・現在のシステムでの高大連携授業の単位認定には、遠隔地から参加の生徒達と中央部から参加の生徒達の間で不公平感が生じる。
- ・単位認定を行うことで大学入学への動機付けになるのか疑問。

高校生がより参加しやすい環境の整備

(高校側意見)

- ・高校生側からみると高校生向け大学関係事業がそれぞれの機関から提供されている。日程的に重なることも多く、お互いに生徒を取り合っているのではないか。
- ・県北・県南の会場は大学に限らず交通の利便性を考え、会場に高校を設定することも考えて欲しい。
- ・高大連携授業の内容や開催日程など高校からの要望を聞いてもらえるのだろうか。

(大学側意見)

- ・出前講座・土曜講座・高大連携授業の情報の共有を行い、教育庁の土曜講座については、日程調整を行っていきたい。
- ・県北・県南地区で開催する高大連携授業には、各地域の高校間で連携を取っていただき、より多くの生徒の参加を促すようなシステムがあれば、と考える。
- ・高校側の講義テーマに関する意見など今まで、出てきていない。ぜひ、高校から要望や意見を出して欲しい。

高校生への情報提供方法について

- ・今までは、高校進路指導室を通じて広報資料を教員から生徒に提供している。今後、教員の負担感の軽減や高校生のより自主的な参加を目的に、ホームページのモバイル版を作成し、生徒が携帯電話から直接大学コンソーシアムあきたに申込ができるようなシステムを来年度より導入する計画。
 - ・一方で教員から参加を促してもらうことで、参加生徒数が増加する。

4 コンソーシアムにおける今後の検討事項

上記の意見交換を踏まえ、高大連携授業に関する今後の検討事項を次に整理する。

(1) 高校側ニーズの把握

- ・高校側の要望が見えにくい。大学コンソーシアムから高校側の意見吸い上げを行うシステムの整備。

(2) 情報提供方法・内容の精査

- ・各大学主催・教育庁主催の高校生対象事業と大学コンソーシアムあきた高大連携授業の情報提供の状況について、現状では各機関が高校生対象に事業展開、また、情報提供も各機関がそれぞれ行っている。
- ・教育庁・各大学と情報を交換し日程調整を行った上で、高校側に情報提供をする必要がある。

(3) 県北・県南開催のさらなる推進

- ・交通機関等の利便性を考え、会場の設定を大学に限らず高校を会場にするなど柔軟な対応が必要。
- ・遠隔地におけるe-learningシステム適用の可能性を探る。

(別紙)参加者名簿

秋田県内高校と大学・短大による連携のための合同意見交換会出席者一覧

	機 関 名	職 名	氏 名	備考
1	秋田県教育庁高校教育課	副 主 幹	澤井 康孝	
2	秋田県立鷹巣農林高等学校	教 諭	市川 和春	
3	秋田県立能代高等学校	教 諭	藤原 孝一	
4	秋田県立男鹿工業高等学校	教 諭	佐藤 貞夫	
5	秋田県立金足農業高等学校	教 諭	萩庭 敦	
6	秋田県立秋田南高等学校	教 諭	渡部 公雄	
7	秋田県立秋田新屋高等学校	教 諭	佐藤 高	
8	秋田県立本荘高等学校	教 諭	柘植 敏朗	
9	秋田県立由利工業高等学校	教 諭	渡邊 鉦治	
10	秋田県立西目高等学校	教 諭	村上 政基	
11	秋田大学	教育推進主管・教授	小川 信明	
12	秋田大学	准 教 授	細川 和仁	
13	秋田大学	特任教授	佐々木 厚	
14	秋田大学	課長補佐	佐藤 幸男	学務部教務課
15	秋田大学	教務企画係	池田 正義	学務部教務課
16	秋田県立大学	理事(教育担当)	森 宏一	
17	秋田県立大学	スタッフ	齋藤 知論	教務・学生f-d
18	国際教養大学	准 教 授	山本 尚史	
19	国際教養大学	参事兼教務課長	加藤 泰久	
20	ノースアジア大学	教養部長・教授	福山 裕	
21	秋田看護福祉大学	看護福祉学部長	三田 禮造	
22	秋田公立美術工芸短期大学	教授・大学開放センター所長	平野庫太郎	
23	秋田公立美術工芸短期大学	准教授・教務委員長	長沢 桂一	
24	秋田公立美術工芸短期大学	主 事	石井 中	学生課
25	秋田栄養短期大学	短大部長	佐藤 実	
26	聖霊女子短期大学	教務部長・教授	横溝 眞理	
27	日本赤十字秋田短期大学	介護福祉学科長	村上 照子	
28	日本赤十字秋田短期大学	学務課長	佐藤 昌宏	
29	聖園学園短期大学	准 教 授	小笠原京子	
30	秋田工業高等専門学校	准 教 授	恒松 良純	
31	放送大学秋田学習センター	所 長	澤田 雅	
32	秋田職業能力開発短期大学校	助 教 授	田山 英臣	
33	秋田県学術国際部学術国際政策課	政 策 監	深井 智	
34	カレッジプラザ	副 主 幹	藤井 和明	学術国際政策課
35	カレッジプラザ	主 事	武田さやか	学術国際政策課

県内各公立立高等学校に対するアンケートとその結果

高大連携合同意見交換会 高校用 事前アンケート集計結果

<アンケート対象校>

- ・対象校 県内高校60校（県北地区18校、県央地区23校、県南地区19校） 定時制含む
- ・回答数 県内高校52校（県北地区14校、県央地区20校、県南地区18校）

Q 1 貴校では、高大連携授業を生徒に積極的に活用してほしいと考えていますか？
(は1つ)

		回答数	構成比
1	そう考える	31	61.0%
2	ややそう考える	13	25.0%
3	どちらとも言えない	6	11.0%
4	あまりそう考えない	2	3.0%
5	そう考えない	0	0%
6	無回答	0	0%

Q 2 貴校では、高大連携授業をよりよい仕組みとするために、どのような取り組みが有効だと考えますか？
(はいくつでも)

		回答数	構成比
1	受講実績について高校で単位認定を行う	15	17.8%
2	受講実績について大学で単位認定を行う	7	8.3%
3	受講実績を開講大学の推薦・AO入試で評価に加味する	27	32.1%
4	県北・県南各地域での開講科目数を増やす	30	35.8%
5	その他	5	6.0%
6	無回答	0	0%

その他...

- ・夏、冬、春休みなどの長期休みに集中して開講する。
- ・平日の開講をやめて、土曜日のみとする。
- ・県北、県南とともに由利本荘地域でもお願いしたい。
- ・出張講座なども併せて実施したらどうか。
- ・県内高校と総合教育センターをむすぶLANを用いて、実況ないしオンデマンドで授業を配信するなど、インターネットの活用はどうか。

Q 3 今年度の高大連携授業は、前年度に比べ開始時期を1ヵ月遅らせる、1回のみを受講も認める、といった変更点がありましたが、学校での指導等にメリットはありましたか？

県北地区 14校から寄せられた意見

(メリットがあった...3校、メリットは特になかった...7校、無回答...4校)

- 1 とても有り難かった。参加しやすい。
- 2 学びの機会が増えた点において、1回のみ受講が認められたことは指導上のメリットであった。
- 3 受講しやすくなった。
- 4 特に感じませんでした。県北地区開催の講座が少なかったためだと思います。
- 5 1か月遅れは特に無し。1回のみは、遠い所から通う場合メリットはありました。
- 6 本校では大学進学者が少なく、また近くに大学がないので特に変化はありません。
- 7 地域的に交通の便が悪く、あまりメリットはなかった。(秋田市にも、大館市にも、1時間以上かかるため)

県央地区 20校から寄せられた意見

(メリットがあった...11校、メリットは特になかった...9校)

- 8 生徒に周知させるうえでよかったと思う。
- 9 今回の変更点は、申し込みしやすい条件になっていると思う。
- 10 以前より受講しやすくなった。
- 11 学校行事と重なった場合、欠席しなければならない時もあるので、1回のみ受講は良かったのではないか。
- 12 募集等に余裕をもって行うことができたため、受講者も増え、よかった。
- 13 部活動や秋田まで電車で行くことを考慮すると、本荘高校の生徒にとって受講しやすい方向に進んだと思います。
- 14 開始時期が遅くなったため、生徒への周知・募集期間にゆとりがあって助かった。
- 15 生徒の進路をある程度把握した上で、授業を生徒に薦めることができた。
- 16 残念ながら、今年度の受講者がゼロであったが、遠距離にあるため、1回のみ受講が可であることは受講しやすいと思う。
- 17 出席しやすいよう条件整備をしていただいたことで、生徒に対して進めやすくなりました。
- 18 特にメリットもデメリットもなかったと思うが、事務処理上は、メリットはあったのではないだろうか。

県南地区 18校から寄せられた意見

(メリットがあった...5校、メリットは特になかった...12校、無回答...1校)

- 19 開始時期が変更になったことで生徒が参加しやすくなった。
- 20 1日で集中講義を完結させることで生徒は参加しやすくなったようです。1日完結の講義を増やすと、受講者は増えると思います。
- 21 生徒に勧めやすくなった。
- 22 1回のみ受講可ということで多くの生徒が受講可能になったと思われるので、メリットはあったと感じる。
- 23 距離的な問題が大きく、今回の変更点についてはメリットはなかったと思います。
- 24 本校では特に反応が目立ったものはなく残念でした。
- 25 受講者がいなくて残念でした。従って、特にメリットはありませんでした。

- 26 参加者がいなかったなので、メリットはなかった。
- 27 参加者がおらず残念に思う。
- 28 メリットはありません。開始時期や1回の受講を認めるより、場所が問題である。
- 29 メリット、デメリット共に特にありません。

Q 4 高大連携授業や、県内の大学・短大等との連携についてご意見・ご要望をお寄せください

県北地区 14校から寄せられた意見

- 30 募集に関して、進路指導主事が取りまとめるやり方をやめてほしい。最近には特に校務が多忙で、年2回の募集業務は負担である。募集のためのパンフレット等は配布してもよいが、生徒が個人で申し込む形にぜひとも改めてほしい。
- 31 地区的に生徒が開講大学へ通うことが難しい。
- 32 鹿角から大館までの交通費も苦しく、参加できなかった例がありました。
- 33 交通の関係上、平日の授業終了後に秋田市まで行くのは負担も大きく時間もかかる。遅刻してしまう場合もある。県北、県南地区での開講の機会が増えてほしい。
- 34 特に1年生に受講させたい。進路決定の参考にさせたい。
- 35 以前、受講者が少なく実施できなかった事があったので、対策を考慮して欲しい。距離的に、秋田市での実施には参加者が出ない状況にある。
- 36 学校としても、様々な願いをしておりますが、快くお引き受けいただき感謝しております。今後とも、連携を深めていただければと思います。
- 37 能代からは、平日の授業には、時間に間にあわず、参加できません。なるべく、秋田市での授業は土曜日に行っていただければありがたいと存じます。

県央地区 20校から寄せられた意見

- 38 例年県内各大学・短大さんには御協力いただき、今後もこれまで以上に連携を強めていければと思っております。
- 39 今後も継続して開催して欲しい。
- 40 大学の出前講座など増えているが、希望が少ない分野では利用して受講させたい。
- 41 工業高校の性格上、ものづくりや科学的な内容に生徒は興味を持っていた。
- 42 知的好奇心の高い生徒や当該の大学(短大)に進学を予定している生徒にとっては有益な事業だと思う。
- 43 今現在実施されている内容で十分だと思います。
- 44 オープンキャンパスの案内や出前授業などを積極的に実施していただけるようになり、大学が身近なものになってきました。大変ありがたいと思っております。
- 45 10月4日(土)の特別企画(20年度後期)は好評であった。
- 46 申込みまで高校で行って、以降はコンソーシアムさんの方で様々な連絡等をしていただき、高校の負担を減らしていただいているのを助かるが、現在の形のままで真の連携と言えるのか疑問である。
- 47 6月の初旬の開始で、3年生が全県総体、東北大会と重なり、申込みをして、楽しみにしていたにもかかわらず、参加できなかったことがありました。高校側の都合で申し訳ないですが、開始日時を考慮していただけたらありがたいです。

- 48 平日放課後の開始時間をもう少し遅らせることが可能であれば、本荘から出ていくには助かります。
- 49 Q 2 で解答した通り、単位認定や出前授業など組み合わせたらどうだろうか。
- 50 高校側にどの生徒がどの講座を受講できることになったか、できれば知らせて欲しい。

県南地区 18 校から寄せられた意見

- 51 大学での学習内容を知るため、学習意欲を高めるために良い企画であると思います。
- 52 オープンキャンパスや学校見学等でお世話になっており、ありがとうございます。また、出前授業等も実施されており、今度活用して、生徒の進学意欲を高めたいと思っております。これからもよろしく願います。
- 53 県南での開催など考慮していただき感謝しております。
- 54 生徒にとってとても良い機会なので生徒がどんどん参加、利用してくれればと願っているのですが。
- 55 続けて行ってほしい。
- 56 県南には高等教育機関がないため、大学の授業がどのようなものか、大学で行われている先端的な研究はどのようなものなのかを子供達が目にする事ができません。県南で開催することで子供を刺激していただきたいと思います。
- 57 申し込みまでの期間に余裕が欲しい。
- 58 長期休業中に、県北や県南での開講を増やせば受講者も増えると思います。ただ、生徒ひとりひとりへのチラシはいりません。必要があれば、各校で、印刷してもらったらどうでしょうか。
- 59 県南地区開催の科目数が増えれば参加者も出てくると思われます。
- 60 Q 2 にもあったように、地理的に参加困難なために断念する生徒もいるため、中央以外でのより多くの開講が望まれる。
- 61 魅力的な講義が多いが、遠距離であることが多く、参加できないでいるようです。
- 62 志望校が決まった生徒にとって高大連携授業は有意義な取り組みであり、学習意欲が更に向上する好機となっているため（連携）活用例や実施内容等が冊子になったものがあれば機会が更に増えるのではないのでしょうか。
- 63 県南に大学・短大が立地していない為、他地区に比して参加がむずかしい。一方、この連携授業をつうじて、学ぶことへのモチベーションを高めることが出来ることは生徒にとって大きなメリットである。Q 2 回答にも記したように、何か新しい策も検討していただけると幸いです。

県内各高等教育機関に対するアンケートとその結果

高大連携合同意見交換会 大学・短大等用 事前アンケート集計結果

<アンケート対象校>

- ・対象校 県内高等教育機関 13校
- ・回答数 県内高等教育機関 13校

- Q 1 貴学では、高大連携授業の意義を、(ア)県内高校生への自学のPRの機会、(イ)地域貢献活動の一環、のどちらに置いていますか。 (は1つ)

	回答数	構成比
1 (ア)に置いている	2	15.4%
2 どちらかと言えば(ア)	4	30.8%
3 どちらとも言えない	3	23.0%
4 どちらかと言えば(イ)	3	23.0%
5 (イ)に置いている	1	7.8%
6 無回答	0	0%

- Q 2 貴学では、高大連携授業をよりよい仕組みとするためにどのような取り組みが有効だと考えますか？ (はいくつでも)

	回答数	構成比
1 受講実績について高校で単位認定を行う	5	26.3%
2 受講実績について大学で単位認定を行う	4	21.1%
3 受講実績を開講大学の推薦・AO入試で評価に加味する	5	26.3%
4 県北・県南各地域での開講科目数を増やす	5	26.3%
5 その他	0	0%
6 無回答	0	0%

- Q 3 高大連携授業に対するご意見・ご要望をお寄せください

- 01 大学での単位認定(入学後)制度を大学で導入した場合、生徒がよりその科目(又は大学)に興味を持つようになるか？又、受験するモチベーションになるか？について各高校の御意見をうかがいたい。
- 02 県北での開催の際には、前年までの参加者の多い高校や交通アクセスの良い高校で開催できませんでしょうか。
- 03 高校生のニーズに合った授業を提供できるように、事業評価を行い、より積極的な方向へ改善していくべきではないだろうか。
- 04 「募集案内」には、開講科目名とキーワードだけでなく、それぞれの回の講義内容がわかるような説明(シラバス)があってもよいのではないのでしょうか。(紙幅の関係もあると思いますが。)
- 05 受講状況から高校生が受講を希望する授業内容に地域差があるように感じられます。高校側からの具体的要望を聞くことが出来れば参考になります。
- 06 Q 3・4については、全学的議論が成されておらず、正確な回答はできませんが、現在、具体的な要望等は、ありません。
- 07 高校側の具体的な要望を知りたい。
- 08 本学の場合、講師が毎回入れ変わり、講義の内容が多岐にわたる。机やイスが移動可能な部屋がよい。
- 09 受講希望者が多数参加できる工夫等をお願いしたい。(高校行事と重ならない様に調整する等)

Q 4 高大連携授業に限らず、県内の大学・短大等との連携についてご意見・ご要望をお寄せください

- 10 校長レベルだけでなく、現場(教員)レベルと大学の教員レベルの話し合い(後々の課題について)の機会を持つ必要がある。
(例)・理科ばなれ・高校のカリキュラムと大学の教養基礎教育
- 11 各大学の特色ある科目を、それぞれの大学で開催し、高校生にわかりやすい授業を行ってはどうか。
- 12 高校への出前授業も考えている。
- 13 県内高校との連携を強化することで、県内大学・短大への進学者を増やすことができれば、有意義である。
- 14 このような意見交換会をこれからも定期的に関いてほしい。
- 15 連携授業以外での連携について、協議する場を設けてほしい。

連携公開講座

平成20年度連携公開講座の実施状況

取り組みテーマ

「秋田元気力講座～人が元気に、地域が元気に～」

これからの秋田を活気のある、より元気な地域にしていこう！というねらいで、秋田県内の大学や短大の知的資源を集め、幅広い研究領域の視点から地域の活性化に向けた分析や提言を県民に提供するリレー形式の公開講座。

「明るくしなやかシルバーライフ～人生後半をすこやかに～」

人生後半をすこやかに高齢化社会を前向きに生きる知恵を、秋田県内の大学や短大の各分野の研究者が講師を務めて開講するリレー形式の公開講座。

シニア世代を主な対象として、わかりやすさ、したしみやすさを重視した実学講座として開講した。

参加機関及び講師数

< 秋田元気力講座 >

秋田大学	1名
秋田県立大学	4名
国際教養大学	2名
ノースアジア大学	1名
秋田公立美術工芸短期大学	1名
聖園学園短期大学	1名
秋田工業高等専門学校	1名

計 11名

< 明るくしなやかシルバーライフ >

秋田大学	1名
秋田県立大学	2名
国際教養大学	2名
ノースアジア大学	2名
秋田看護福祉大学	1名
秋田栄養短期大学	1名
日本赤十字秋田短期大学	1名
秋田工業高等専門学校	1名

計 11名

開講状況 < 秋田元気力講座 >

第1回 20.10.22(水)18:30~20:00

テーマ:「住民が主役になる運動を」

講師: 国際教養大学 勝又美智雄 教授

内陸線存続問題でわかったこと

地域と大学が連携した活性化プラン << 田沢湖周辺の国際文化基地構想 >>

国際教養大学を新しい文化・芸術の拠点に

青森で始まった「笑いの療法士」づくり

第2回 20.10.30(木)18:30~20:00

テーマ:「都市の居住を考える~まちなかと郊外~」

講師: ノースアジア大学法学部 上村康之 講師

まちなか居住ブーム

郊外住宅地の老朽化、空洞化

全国の事例研究から

まちなかと郊外居住の未来像

近年の状況分析や学会等での研究成果を整理して皆さまに情報提供いたします。

また、秋田市都市圏について会場の皆さんと一緒に考えてみましょう。

第3回 20.11.05(水)18:30~20:00

テーマ:「遊び塾はいかが? ~親子の絆と子どもの元気の回復~」

講師: 聖園学園短期大学 腰山 豊 教授

遊び指南の塾を開こう

・遊び名人、童話、紙芝居など

・昔の遊び(伝承遊び)

・自然遊び、川ガキ遊びのすすめ

・これからの遊び ~体をつかう、ゲームの工夫~

遊び、児童文化の専門家の組織化を図ろう~遊び名人、童話・紙芝居など~

第4回 20.11.14(金)18:30~20:00

テーマ:「地場産業を元気にするマーケティング - 公開データを活用して - 」

講師: 秋田県立大学システム科学技術学部 嶋崎真仁 准教授

地域の元気はどこからくるの?

地域経済をリードするのは域外から付加価値を獲得する企業

地域企業の元気はどこからくるの？ 競争に打ち勝つためには・・・

自身のマーケティング(商品企画) ビジネスモデルの構想力 製造・流通の優位性
地域企業のマーケティング力を高めよう

マーケティングの初歩として、公的機関が調査・公開しているデータを加工した分析方法を 紹介
“公開データ・マーケティング”はどの場面で使えるの？

どこに行けばデータを入手できるのかなども紹介します

第5回 20.11.21(金)18:30～20:00

テーマ：「生涯現役で医者いらずの地域に地産地消で地域を元気に！

～公的データによる地域経済システムの比較から、その条件を探る～」

講師：秋田県立大学システム科学技術学部 岸川善紀 助教

Step1 地域課題解決のため、抱える問題の正体を探るチカラをつけることをめざします

Step2 高齢化問題を事例に、公的データから地域の実態を探る方法を話します

高齢化県秋田の課題に、医療・福祉費の負担増、地域産業を支える働き手不足があります。しかし、長野のように高齢者が「生涯現役」を貫くことで、一人あたり医療費が低い「医者要らず」の地域も存在します。

秋田がこの「長野モデル」を導入するには、その成立条件を見極めなければなりません。そこで、公的な統計データにより地域を比較分析します。農業県を中心に高齢者の就業状況や医療・介護インフラの整備状況などを多面的に比較します。

Step3 「地域経済をシステムとして捉える視点」を身につけることで、地域のマーケティングや政策立案に活用できます

第6回 20.11.26(水)18:30～20:00

テーマ：「デザインが地域を活性化する～デザイナーの視点から地域の活性化を考える～」

講師：秋田公立美術工芸短期大学 官能右泰 准教授

秋田公立美術工芸短期大学産業デザイン学科学生(ゼミ)と企業(両関酒造㈱・秋田いなふく米菓㈱・彌高神社)とのコラボレーション実践授業による、まちおこしにつながる新商品開発プロセスと報告
デザイナーの視点から考える観光、商品開発と地域の活性化

地域活性化につながる「歴史・文化・四季」をキーワードにしたデザイナーたちの活動

第7回 20.12.03(水)18:30～20:00

テーマ：「建築の見かた～建築の歴史と意匠～」

講師：秋田工業高等専門学校 角 哲 助教

日本近代を中心とした歴史的建築物の紹介

背景にある建築物、建築家の紹介

建築の意匠、造作の紹介

～旅行がちょっぴり楽しくなる講座ですっ～

第8回 20.12.09(火)18:30～20:00

テーマ：「家庭、学校、職場を明るくする秘訣教えます」

講師：国際教養大学 佐伯知美 助教

モチベーションUPの秘訣

ゴール・セッティングの秘訣

コラボレーションの秘訣

振り返りの秘訣

スムーズなコミュニケーションの秘訣

これらの秘訣をもとに、家庭、学校、職場で発生する身近な問題の解決策を提案しますっ！！

第9回 20.12.12(金)18:30~20:00

テーマ：「秋田における構築連携農業の展開を求めて～こまち依存症候群から脱却せよ～」

講師：秋田県立大学 佐藤 敦 名誉教授

秋田の地域特性を活かした「夏山冬里方式」による農畜連携のあり方

「米粉パン」によるコメ消費拡大などを紹介して、

農山村地域の利益と幸福につながる試みについて、皆さんと一緒に考えてみます

第10回 20.12.17(水)18:30~20:00

テーマ：「地域力の再認識と秋田の女性の活発力」

講師：秋田大学工学資源学部 坪井ひろみ 准教授

秋田の女性のここが“すごい”を紹介します。

秋田の女性のすごさを活用し、さらに、高齢化社会先進県“秋田”の強みを生かした

「秋田で始めたい」、「秋田だからこそ成功する」日本で最初の取り組みを提案します

第11回 20.12.19(金)18:30~20:00

テーマ：「グリーンツーリズムの可能性～市民の農村とのふれあい～」

講師：秋田県立大学生物資源科学部 荒樋 豊 教授

現代社会におけるグリーン・ツーリズムの意義 ～グリーン・ツーリズムって何？～

癒しニーズの拡大/農村社会の衰退

グリーン・ツーリズムの展開状況 農家民宿/農家レストラン/農産物直売所・加工活動/農的体験

魅力的な農村の世界

グリーン・ツーリズムの担い手 ～農村女性及び高齢者の自立～

開講状況<明るくシルバーライフ>

第1回 20.11.11(火)14:00~15:30

テーマ：「映画から学んだたかな老後」

講師：国際教養大学 佐伯知美 助教

地域や職場ではつらつと活躍する老後をテーマにした映画を紹介します

家族や友人・仲間とのつながりをテーマにした映画を紹介します

海外の映画に描かれている「したたかな老後」を紹介します

監督や出演者のインタビュー記事を読んで映画の背景を味わいましょう

シナリオも紹介しますので、お気に入りのセリフを見つけましょう

映画ファンの方も、映画は若葉マークという方も、どなた様でも大歓迎です

第2回 20.11.12(水)14:00~15:30

テーマ：「高齢者農業の可能性～新たな農業をやってみよう～」

講師：秋田県立大学生物資源科学部 荒樋 豊 教授

高齢化の深まり 高齢化の動向 高齢化が進んだ理由

高齢化という人口構成は変えられない ～現状の中で如何に生きるかが問われてる～

農村は20年早く高齢化を経験している 農村は生涯現役

高齢者農業の特徴とその可能性

高齢者の農業生産活動への従事タイプ 農外勤務経験者の環流

「第2の人生」これからの農業=新たな農村ビジネス

第3回 20.11.18(火)14:00～15:30

テーマ：「ことばの記憶を掘り起こす - 方言の消滅を救う個人の営み - 」

講師：秋田大学教育文化学部 佐藤 稔 教授

お金や労力をかけなくても自分の言葉を見つめることで、楽しく有意義に文化を掘り起こしましょう
生活に密着した語を思い出すことをきっかけとして、人生を豊かに二度三度と味わい尽くしましょう。
現在と過去にしっかりと目配りして
シニアの知恵を後代に伝え、機嫌よく生きられる手だてのひとつとしましょう

第4回 20.11.20(木)14:00～15:30

テーマ：「駅から2～3時間のまちあるき」

講師：ノースアジア大学法学部 上村康之 講師

秋田県内のまちを、徒歩または自転車で巡ってみましょう。多くの魅力ある「まち」があり、それぞれ楽しみ方があります。
高齢の方も無理なく歩ける2～3時間以内での「あきたのまち再発見」です。
地理やまちづくり、近代化遺産、商店街、食といった話題を中心に駅から歩けるまち巡りを話します。

第5回 20.11.26(水)14:00～15:30

テーマ：「秋田を『癒しの里』に育てよう」

講師：国際教養大学 勝又美智雄 教授

青森で始まった「笑いの療法士」づくり運動
「姥捨て山」ではなく「姥守り山」をつくらう
「演出療法」との組み合わせを！ あきた癒しの里を目指して 笑い元気、笑いで元気！
温泉+医療+介護=長寿天国 リサイクル+環境保全=エコ社会

第6回 20.11.28(金)14:00～15:30

テーマ：「ハイテク駆使してうきうきライフ」

講師：秋田県立大学システム科学技術学部 岡野秀晴 教授

世の中は急速に技術革新が進んでいます。これらの技術を駆使すれば、楽しく生き生きとした後半生を生きることができるはず。現状と未来について、みなさんと一緒に考えてみましょう。
確立されている先端技術や開発中の技術で、年配の方々の日常生活や余暇を快適に過ごす方法は？
未来技術を予測して、こんなことができるようになったら老後も楽しいと思うことを考えてみましょう

第7回 20.12.4(木)14:00～15:30

テーマ：「化学の目をもって日常生活を考える」

講師：秋田工業高等専門学校 西野智路 准教授

身近な生活の中にある化学の法則など、化学的視点から日常生活を見てみましょう
普段、何気なく使っている製品について、化学的な視点から説明します

第8回 20.12.10(水)14:00～15:30

テーマ：「意欲を高めるメンタルトレーニング～心をピークにして意欲を高めよう！～」

講師：ノースアジア大学教養部 伊藤護朗 教授

“希望”がある人は生き生きしています 目的がはっきりしている人は我慢強くなります
そんな人になるための、メンタルトレーニングを紹介します

第9回 20.12.13(土)14:00～15:30

テーマ：「いきいきと心豊かな人生のために

～地域ぐるみで高齢者の生きがいをづくりを推進するヒント～」

講師：秋田看護福祉大学社会福祉学科 高橋和幸 講師

長年住み慣れた地域において「元気に生活する」ことが、高齢者にとって何よりも幸福なこと
秋田県の元気な高齢者が地域の資源を活用して健康づくりや生きがいをづくりに励んでいます
住民の絆を活かした地域ぐるみで高齢者の生きがいをづくりを推進するヒントを提案します！！

第10回 20.12.17(水)14:00～15:30

テーマ：「安心して住める町とは？～地域ケアネットワークで支えあい～」

講師：日本赤十字秋田短期大学 中村順子 准教授

受けたい場所で受けたい医療を受けて、死にたい場所で死ぬるまち
30年後の医療の姿を考える会“メディカルタウン”構想を紹介します
病気になっても、障害を持っても安心して暮らせる町に必要なこと・ものは？
キーワードは『在宅』『情報』『教育』、そして『地域（住民の力）』
地域のネットワークを張るために私たちがすべきことを提案します！！

第11回 20.12.20(土)14:00～15:30

テーマ：「生活リズムと健康～睡眠と食事～」

講師：秋田栄養短期大学 廣川忠男 教授

生活習慣病の誘因は、生活リズムと生理的リズムの乱れの積み重ね。
規則正しい生活と生活リズムの調整は、体内の生理的リズムを整えます。
生活リズムと生理的リズムとの関わりを学習し、規則正しい生活の意義を一緒に考えてみましょう。

受講登録者数及び階別受講者数

秋田元気力講座

受講登録者 118人(前年度119名)

第1回	30人	第5回	25人	第9回	12人
第2回	24人	第6回	53人	第10回	9人
第3回	11人	第7回	17人	第11回	29人
第4回	18人	第8回	13人	平均	21.9人

(前年度平均 23.5人)

明るくしなやかシルバーライフ

受講登録者 101人(前年度95名:全9回)

第1回	37人	第5回	12人	第9回	15人
第2回	21人	第6回	11人	第10回	12人
第3回	15人	第7回	20人	第11回	26人
第4回	27人	第8回	30人	平均	20.5人

(前年度平均 28.1人)

高大連携授業

平成20年度高大連携授業<前期>科目別人数

	科 目 名	科目担当者	人数	男性	女性	
1	英語文化・言語・教育・コミュニケーション学入門	秋大(教) 佐々木雅子准教授	16	2	14	
2	大学の生物学入門	秋大(教) 石井照久准教授	9	2	7	
3	生命科学への招待	秋大(工) 伊藤英晃教授	18	4	14	
4	創造技法の学習	本荘開講 県大(シ) 谷内宏行教授	17	16	1	
5	高校生のゲーム理論	県大(シ) 木村寛准教授	20	16	4	
6	暮らしに役立つ生命科学	県大(生) 水野幸一准教授	8	1	7	
7	生き物たちの不思議な世界に学ぶ	県大(生) 山本好和教授	6	2	4	
8	秋田の自然と環境を科学する	県大(生) 金田吉弘教授	7	3	4	
9	アグリビジネス	県大(生) 佐藤正志准教授	12	8	4	
10	森林・木材の秘めた力を探る <開講中止>	県大(木) 高田克彦教授	1	1	0	
11	森林・木材の秘めた力を探る 大館開講 <開講中止>	県大(木) 高田克彦教授	3	1	2	
12	国際教養学への招待	教養大 山本尚史准教授	12	0	12	
13	夢のある国際人を目指そう	教養大 勝又美智雄教授	16	1	15	
14	楽しみながら学べる高校生のための初級ビジュアルアート講座	ノース大(経)阿部時男教授	7	3	4	
15	みんなで観光楽を!	ノース大(法)石山あつむ特任教授	6	1	5	
16	社会福祉入門	大館開講 看護福祉 成田猛教授	11	5	6	
17	看護学を知る	大館開講 看護福祉 大奈良知子准教授	21	4	17	
18	魅力発見!	公立美短 渋谷重弘教授	12	1	11	
19	かたちづくる世界・パート1	公立美短 渡邊有一教授	26	2	24	
20	高校生のための哲学	聖霊短大 御子神隆也准教授	13	2	11	
21	現代の食生活の諸問題	聖霊短大 山内征三教授	23	0	23	
22	高校生のための介護福祉入門	日赤短大 村上照子教授	15	4	11	
23	入門・看護と周辺分野	日赤短大 宇佐美覚准教授	70	14	56	
24	保育専門科目 A	聖園短大 安藤節子教授	48	1	47	
25	ソフトウェア開発のしくみ	大館開講 職能短大 徳田孝明講師	11	7	4	
26	キールームアメーションの作成で学ぶ足歩行ロボットのしくみ <開講中止>	職能短大 松田晃太郎講師	0	0	0	
受講申込実人員 366人(開講中止科目に係る者を含む)			科目延べ人数	408	101	307

<開講中止>科目 10専願名1名、科目 11専願3名、科目 26は応募なし

平成20年度高大連携授業<後期>科目別人数

	科目名	科目担当者	人数	男性	女性
	特別企画講話「医学部を目指す高校生のために」	秋田大学 三浦亮名誉教授	32	13	19
1	海外における保健医療分野の活動	秋大(医) 工藤俊輔教授	17	5	12
2	生物の世界を探る 横手城南開講	県大(生) 山本好和教授	12	6	6
3	グリーンケミストリー <開講中止>	県大(生) 栗本康司准教授	1	1	0
4	大学の英訳・英訳・外国語部で学ぶこと、学べること 開講中止	県大(総) 榎木園鉄也准教授	2	0	2
5	国際教養学入門	教養大 勝又美智雄教授	12	2	10
6	今日からあなたも物価ツウ! <開講中止>	ノス大(経) 鈴木達郎教授	2	0	2
7	“ブランド”の不思議を科学する<開講中止>	ノス大(経) 跡部学准教授	1	1	0
8	本日オープン「放課後 法律クラブ」<開講中止>	ノス大(法) 木村澄教授	3	1	2
9	観光とホスピタリティ	ノス大(法) 上村康之講師	9	0	9
10	健康科学入門 看護福祉大開講	看護福祉大 沼澤さとみ准教授	8	2	6
11	造形表現の基礎(素描)	公立美短 渋谷重弘教授	20	3	17
12	かたちづくる世界・パート2	公立美短 渡邊有一教授	7	0	7
13	健康と食生活 栄養短大開講	栄養短大 佐藤実教授	13	1	12
14	高校生のための倫理学 <開講中止>	聖霊短大 御子神隆也准教授	4	0	4
15	高校生のための介護福祉入門 横手城南開講	日赤短大 土室修准教授	10	1	9
16	保育専門科目B	聖園短大 腰山豊教授	32	0	32
17	コンピューターとものづくり <開講中止>	職能短大 田山英臣准教授	1	1	0
18	建築施工管理技術について 職能短大開講	職能短大 佐竹重則講師	3	3	0
受講申込実人員 175人(開講中止科目に係る者を含む)			科目延べ人数	189	40
				149	

<開講中止> 科目 3 併願 1 名、科目 4 専願 1 名併願 1 名、科目 6 専願 2 名、
 科目 7 専願 1 名、科目 8 専願 1 名併願 2 名、科目 17 専願 1 名、
 科目 14 専願 3 名併願 1 名(うち、併願 1 名は後日辞退申出)

<参考> 受講者の内訳

男女別(実人員)

	20年度・後期19科目	20年度・前期26科目	19年度・後期10科目	19年度・前期20科目
男性	36人(20.6%)	90人(24.6%)	24人(15.3%)	65人(19.1%)
女性	139人(79.4%)	276人(75.4%)	133人(84.7%)	277人(80.9%)
合計	175人(100.0%)	366人(100.0%)	157人(100.0%)	342人(100.0%)

	18年度・後期13科目	18年度・前期14科目	17年度・後期13科目	17年度・前期10科目	16年度・12科目
男性	20人(13.2%)	63人(18.3%)	42人(20.9%)	33人(9.9%)	48人(15.5%)
女性	132人(86.8%)	282人(81.7%)	159人(79.1%)	299人(90.1%)	262人(84.5%)
合計	152人(100.0%)	345人(100.0%)	201人(100.0%)	332人(100.0%)	310人(100.0%)

学年別(実人員)

	20年度・後期19科目	20年度・前期26科目	19年度・後期10科目	19年度・前期20科目
1年生	43人(24.6%)	50人(13.7%)	32人(20.4%)	46人(13.5%)
2年生	62人(35.4%)	123人(33.6%)	73人(46.5%)	79人(23.0%)
3年生*	70人(40.0%)	193人(52.7%)	52人(33.1%)	217人(63.5%)
合計	175人(100.0%)	366人(100.0%)	157人(100.0%)	342人(100.0%)

	18年度・後期13科目	18年度・前期14科目	17年度・後期13科目	17年度・前期10科目	16年度・12科目
1年生	25人(16.5%)	36人(10.4%)	53人(26.4%)	44人(13.3%)	72人(23.2%)
2年生	52人(34.2%)	116人(33.6%)	95人(47.2%)	104人(31.3%)	126人(40.7%)
3年生*	75人(49.3%)	193人(56.0%)	53人(26.4%)	184人(55.4%)	112人(36.1%)
合計	152人(100.0%)	345人(100.0%)	201人(100.0%)	332人(100.0%)	310人(100.0%)

* 3年生には定時制4年生を含む

地域別(実人員)

	20年度・後期19科目	20年度・前期26科目	19年度・後期10科目	19年度・前期20科目
鹿角小坂地域	2人(1.1%)	9人(2.4%)	13人(8.3%)	18人(5.3%)
大館北秋地域	8人(4.6%)	47人(12.8%)	2人(1.3%)	32人(9.4%)
能代山本地域	5人(2.9%)	13人(3.6%)	5人(3.2%)	6人(1.8%)
秋田男鹿地域	110人(62.8%)	186人(50.8%)	104人(66.2%)	213人(62.1%)
本荘由利地域	19人(10.9%)	60人(16.4%)	9人(5.7%)	28人(8.2%)
大曲仙北地域	11人(6.3%)	34人(9.3%)	13人(8.3%)	28人(8.2%)
横手平鹿地域	20人(11.4%)	12人(3.3%)	11人(7.0%)	15人(4.4%)
湯沢雄勝地域	0人(0.0%)	5人(1.4%)	0人(0.0%)	2人(0.6%)
合計	175人(100.0%)	366人(100.0%)	157人(100.0%)	342人(100.0%)

	18年度・後期13科目	18年度・前期14科目	17年度・後期13科目	17年度・前期10科目	16年度・12科目
鹿角小坂地域	2人(1.3%)	15人(4.3%)	0人(0.0%)	1人(0.3%)	0人(0.0%)
大館北秋地域	6人(3.9%)	24人(7.0%)	7人(3.5%)	0人(0.0%)	1人(0.3%)
能代山本地域	2人(1.3%)	23人(6.6%)	17人(8.5%)	13人(3.9%)	7人(2.3%)
秋田男鹿地域	86人(56.6%)	191人(55.4%)	139人(69.1%)	238人(71.7%)	250人(80.6%)
本荘由利地域	22人(14.5%)	59人(17.1%)	28人(13.9%)	60人(18.1%)	34人(11.0%)
大曲仙北地域	16人(10.6%)	17人(4.9%)	9人(4.5%)	15人(4.5%)	13人(4.2%)
横手平鹿地域	18人(11.8%)	4人(1.2%)	1人(0.5%)	5人(1.5%)	5人(1.6%)
湯沢雄勝地域	0人(0.0%)	12人(3.5%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)	0人(0.0%)
合計	152人(100.0%)	345人(100.0%)	201人(100.0%)	332人(100.0%)	310人(100.0%)

社会人講座

平成20年度大学コンソーシアムあきた社会人講座開講科目一覧

社会人講座

	科目名	□人は受講申込者数						受講料収入	備考
1	はじめてのヒンディー語 - ヒンディー語会話・基礎の基礎 - 秋田県立大学総合教育センター 榎木園鉄也准教授	13人	5/31 土 14:00	6/14 土 14:00	6/28 土 14:00			15,600	
2	やさしい工学講座 - 社会のなかの科学技術 - 秋田県立大学 阿部紘土特任教授 漆川芳國特任教授、竹内伸直特任教授、 武田紘一特任教授、長南征二特任教授	開講中止	6/2 月 18:00	6/9 月 18:00	6/23 月 18:00	6/30 月 18:00			
3	オペラへの招待 - 名作で学ぶオペラの歴史と鑑賞法 - 聖霊女子短期大学 佐藤真弓教授 横浜国立大学 小宮正安准教授	27人 53人	6/10 火 15:00	6/24 火 15:00	6/30 月 18:30	7/8 火 15:00		43,200 21,200	
4	経済がわかる！仕事にビジネス情報を生かそ う - 経済紙の効果的利用法 - 国際教養大学 勝又美智雄教授、山本尚史准教授、日本経 済新聞社石川正浩秋田支局長	45人	6/16 月 19:00	6/23 月 19:00	7/7 月 19:00			54,000	
5	働き盛りのメンタルヘルス 秋田大学医学部保健学科新山喜嗣教授 猪股祥子助教、上村佐知子助教	26人	7/3 木 18:30	7/10 木 18:30	7/17 木 18:30			31,200	
6	論語を読む - 現代社会に通じる生きるヒント - 秋田大学教育文化学部 吉永慎二郎教授	27人	8/23 土 13:30	8/30 土 13:30	9/6 土 13:30			32,400	
7	保育実践研究法～その研究計画、仮説、実践、 評価、記録の演習（4回シリーズ） 聖園学園短期大学 腰山豊 教授	開講中止	11/22 土 10:00	11/22 土 12:30	11/22 土 14:10	11/22 土 15:50			
8	テリー先生の世界旅行記-北欧編-(3回シリーズ) 秋田大学教育文化学部 講師テリー・リー・ナガハシ	27人	10/11 土 14:00	10/18 土 14:00	10/25 土 14:00			32,400	
9	ジェイン・オースティンの「高慢と偏見」を読む 秋田県立大学 松村聡子准教授	13人	11/29 土 14:00	12/6 土 14:00	12/13 土 14:00			15,600	
10	美味しさの科学 秋田栄養短期大学栄養学科 講師 伊藤千夏・講師 東口みづか	12人	11/1 土 11:00	11/8 土 11:00	11/15 土 11:00			14,400	
11	子どもの遊びと育児支援（4回シリーズ） 聖園学園短期大学腰山豊教授・内藤裕子 准教授・築地芳子准教授・小笠原京子准教授	15人	12/20 土 10:30	12/20 土 12:40	12/20 土 14:20	12/20 土 16:00		24,000	

科目名	□人	は受講申込者数						受講料収入	備考
12 海洋学から見た海の森づくり(仮) 国際教養大学—松田恵明外部講師		開講中止							
講師から連絡なし									
13 園芸療法 - 園芸活動を福祉や教育に役立てる - 秋田県立大学生物資源科学部 神田啓臣准教授	23人		1/20 火 13:30	1/20 火 14:40	1/20 火 15:50			18,400	
14 象牙の塔から市民の広場へ - 秋田における息吹 - 前秋田大学長 三浦 亮氏 < 社会人特別講座受講無料 >	75人		11/22 土 13:30						
15 小宮先生と過ごすヨーロッパ芸術の夕べ - カラヤンと20世紀 - 横浜国立大学教育人間科学部小宮正安准教授	52人		11/10 月 18:30	12/8 月 18:30				41,600	
16 梵字(デーヴァナガリ文字)入門 - イドの文字を書いてみよう - 秋田県立大学総合教育センター 榎木蘭鉄也准教授	17人		1/10 土 14:00	1/24 土 14:00	2/7 土 14:00			20,400	
17 薬を知って健康に生きる 秋田看護福祉大学看護福祉学部 看護学科田中禮子教授	21人		12/2 火 14:00	12/9 火 14:00	12/16 火 14:00			25,200	
18 ドイツ民謡に楽しむ 「ドイツのクリスマス歌」 聖霊女子短期大学音楽科 佐藤眞弓教授	24人		10/28 火 15:00	11/11 火 15:00	11/25 火 15:00			28,800	
19 文化のなかののインドネシア語 秋田大学教育文化学部 三宅良美准教授	10人		2/5 木 18:30	2/12 木 18:30	2/19 木 18:30			12,000	
20 実用的文章の書き方 秋田大学名誉教授・秋田県立大学名誉教授 三浦順治先生	26人		11/27 木 19:00	12/4 木 19:00	12/11 木 19:00	12/18 木 19:00	12/25 木 19:00	52,000	補講 1/15 19:00

受講者の内訳

受講者数 506名(1科目あたり29.8名)

うちアンケート回収 325名(男性106名、女性219名)

年代	人数	構成比
10代	3	0.9
20代	17	5.3
30代	47	14.5
40代	52	16.0
50代	83	25.5
60代以上	122	37.5
無回答	1	0.3
計	325	100.0

職業	人数	構成比
学生	8	2.5
職業人	145	44.6
自営業	18	5.5
主婦	91	28.0
無職	60	18.5
無回答	3	0.9
計	325	100.0

サイエンスプラザ

大学コンソーシアムあきたサイエンスプラザの実施状況

主旨

サイエンスプラザは、大学の研究者と市民がアットホームな雰囲気楽しく語り合う新しいスタイルのイベントとして実施している企画。

「科学って難しい」「誰かに質問したいけれど」などの声にも応え、大学の研究者が案内人となって身近な科学に触れる機会を市民に提供しようとするもの。

普段は話をする機会がない大学の研究者とひとつのテーマの下、実際に見て触ったり、語り合ったり、さらには食してみたり、という実体験を通して、楽しみながら参加者の好奇心を満たす、研究者と市民が「知」の世界を通じて触れあう社交場として運営している。

食べる生物学

1 テーマ

「食べる生物学 - 身近な魚貝類で美味しく学ぶ生命の不思議 - 」(6話シリーズ)

2 案内人(講師)

秋田大学教育文化学部 石井照久 准教授

3 対象

一般県民(年齢制限等を設けず、どなたでも参加可として参加者を募集)

参加費無料、参加者は希望回に出席可とし定員20名で募集、25名までを受付

4 参加状況

第1話	申込23名	参加者21名(うち小学生5名)	小学3年1名、4年3名、5年1名
第2話	申込27名	参加者24名(うち小学生5名)	小学3年1名、4年3名、5年1名
第3話	申込23名	参加者18名(うち小学生5名)	小学3年1名、4年3名、5年1名
第4話	申込24名	参加者21名(うち小学生7名)	小学3年1名、4年5名、5年1名
第5話	申込24名	参加者21名(うち小学生7名)	小学3年1名、4年5名、5年1名
第6話	申込24名	参加者19名(うち小学生5名)	小学3年1名、4年3名、5年1名

5 各回テーマ

第1話	平成20年10月10日(金)18:30~20:00	活ウニは悪天候により未入荷 「ウニ、ナマコ - とげの皮をもった動物 - 」	観察材料: 男鹿産海鼠
第2話	平成20年11月14日(金)18:30~20:00	「アジ - 魚の構造を知ってさばく - 」	観察材料: 道川産マアジ
第3話	平成20年12月19日(金)18:30~20:00	「ホヤ - 脊椎動物のルーツ - 」	観察材料: 石巻産殻つきホヤ
第4話	平成21年 1月23日(金)18:30~20:00	「イカ - 背骨のない動物 - 」	観察材料: 鳥取産生スルメイカ
第5話	平成21年 2月20日(金)18:30~20:00	「シラスとハマグリ - 海洋生態系を知る - 」	観察材料: 三重産畜養活蛤
第6話	平成20年 3月 6日(金)18:30~20:00	「カニ - 10本の足を持つ - 」	観察材料: 北海道産ボイル冷凍タラバガニ・ズワイガニ

- 6 進め方
 - 30分 案内人によるレクチャー
 - 30分 解剖・観察
 - 30分 調理・食材に纏わる蘊蓄・試食
- 7 設備等の準備

水道及び排水については、カレッジプラザ大講義室に簡易シンク、ポリ水缶、ホース、バケツ排水で代用。熱源はカセットボンベ式コンロ。

身の回りの科学の？はてな？

- 1 テーマ

「身の回りの科学の？はてな？」(4話シリーズ)
- 2 案内人(講師)

国際教養大学 安積 徹 客員教授 (Question 1 ~ 2 担当)
秋田看護福祉大学 奥野智旦 教授 (Question 3 ~ 4 担当)
- 3 対象

一般県民(年齢制限等も設けず、どなたでも参加可として参加者を募集)
参加費無料、参加者は希望回に出席可とし定員15名で募集、20名までを受付
- 4 参加状況

Question 1	申込 20名	参加者 15名
Question 2	申込 22名	参加者 12名
Question 3	申込 26名	参加者 19名
Question 4	申込 32名	参加者 20名
- 5 各回テーマ

Question 1	平成20年 9月13日(土)14:00~15:30	「ダイオキシンってどれくらい毒なの？」
Question 2	平成20年10月 4日(土)14:00~15:30	「マイナスイオンが体にいいって本当？」
Question 3	平成21年 2月14日(土)14:00~15:30	「遺伝子を知る - 生命の設計図の解読が始まった! - 」
Question 4	平成21年 2月28日(土)14:00~15:30	「遺伝子組み換え - 青いバラはどうやって作られたのか - 」
- 6 進め方
 - 45分 案内人によるレクチャー
~休憩・コーヒープレイク~
 - 45分 コミュニケーション・タイム(質問あり、雑談あり)
~講師と受講者、受講者同士のフリートーク~

中大連携授業

大学コンソーシアムあきた中大連携授業の実施状況

事業経過と実施方法の変更

1 ねらい

秋田県内の高等教育機関による地域貢献活動の一環として、中等教育部門との連携による地域の教育活動への支援を図るため、中学校の学習状況を踏まえ、かつ、生徒が自ら考え学ぶ姿勢の涵養など中学校学習指導要領に定める「総合的な学習の時間」の主旨や目的を踏まえた上で、総合的な学習の時間を活用した県内大学等の教員による企画授業を実施する。

2 事業経過

平成20年6月 秋田市内の全中学校へ中大連携企画授業の実施について通知

- ・大学による提供事業の企画例（8メニュー）を配布
- ・中学校における総合的な学習の時間を活用した出前授業
- ・出前授業実施希望校は依頼書をカレッジプラザに提出

平成20年9月 中学校からの実施希望なし。各中学校等に状況を聴き取り

- ・S中学校では高齢者への理解を深める取り組みとして、高齢者疑似体験(ブラインドウオーク等)を実施している。今年度は既に実施したので、平成21年5～6月に実施をお願いできないか 平成21年度の扱い
- ・総合的な学習の時間の使い方については比較的自由度が高いため、他の目的(修学旅行の説明会等)へ転用する機会も多く、結果的に出前授業等を受け入れる時間枠は少なくなっている。
- ・各中学校においてテーマ設定による長期的な取り組みとして実施するよう市教委から求められており、メニュー提示をされてもテーマと合致したものでなければ出前授業を受け入れにくいという事情がある。

3 実施方法の変更

中学校から出前授業実施の申込がなかったことから、今年度の事業実施方法について以下の検討を行った。

- | | |
|----------|--|
| メニューの拡大 | ・各中学校取組テーマの個別聴取は難しい
・各中学校の取組テーマに合わせて出前授業メニューを作成することは時間的に難しい |
| 応募型授業の展開 | ・長期休業中(冬期休業)の実施を検討 |

生徒応募型中代連携授業「みんな集まれ！楽しい科学教室」

1 タイトル

中学生冬休み特別企画

「みんな集まれ！楽しい科学教室～ふしぎの世界を探検しよう～」

2 日時

平成20年1月8日(木)～11日(日) 各日とも午後1時30分～午後3時

3 会 場

カレッジプラザ

4 対 象

中学校 1 ～ 2 年生（受講希望生徒が応募、参加費無料）

5 参加状況

ふしぎワールド	開催日	申込者数 (人)	受講者数 (人)	左の学年別				男女別		
				1年	2年	3年	計	男	女	計
1	1月 8日(木)	16	14	11	3		14	6	8	14
2	1月 9日(金)	6	4		4		4	1	3	4
3	1月10日(土)	11	10	8	2		10	7	3	10
4	1月11日(日)	7	3	2	1		3	2	1	3
計	のべ数	40	31	21	10		31	16	15	31
	実人員	22	20							

6 テーマ・講師

ふしぎワールド 1 平成 21 年 1 月 8 日(木)13:30～15:00

「シラス観察で学ぶ海洋生態系の不思議～シラスを観察して海の生態を知ろう!～」

秋田大学教育文化学部 石井照久 准教授

ふしぎワールド 2 平成 21 年 1 月 9 日(金)13:30～15:00

「リスクってなんだ?～どっちがヤバイ?火事・オヤジ～」

秋田県立大学システム科学技術学部 金澤伸浩 准教授

ふしぎワールド 3 平成 21 年 1 月 10 日(土)13:30～15:00

「セラミックって面白い～こんなところにセラミック!??～」

秋田工業高等専門学校物質工学科 西野智路 准教授

ふしぎワールド 4 平成 21 年 1 月 11 日(日)13:30～15:00

「まちのお宝発見!!～建築のみかた～」

秋田工業高等専門学校環境都市工学科 角 哲 助教

7 受講者アンケート

各回の授業毎にアンケート用紙を配布し調査、以下はその集計結果

(1) 対象者数

受講者のべ人数 31人

アンケート回収数 29人(回収率 93.5%)

(2) 回答者属性

学年	回答数	構成比
1年生	19	65.5
2年生	10	34.5
計	29	100.0

性別	回答数	構成比
男性	15	51.7
女性	14	48.3
計	29	100.0

Q 1 あなたは「楽しい科学教室」を何で知りましたか？（ はひとつ）

	選択肢	回答数	構成比
1	ポスター	2	6.9
2	募集案内チラシ	5	17.2
3	新聞	2	6.9
4	教員からの情報	5	17.2
5	友人からの情報	9	31.1
6	家族からの情報	4	13.8
7	その他（エコクラブからの情報）	2	6.9
	計	29	100.0

Q 2 あなたはどうしてこの科目を受けようと思いましたか？（ はひとつ）

	選択肢	回答数	構成比
1	興味のある科目だったから	18	62.1
2	大学の先生の授業だから	0	0.0
3	進路選択の参考になるから	0	0.0
4	おもしろそうだったから	2	6.9
5	友達に誘われたから	2	6.9
6	親に勧められたから	4	13.8
7	先生に勧められたから	3	10.3
8	その他（ ）	0	0.0
	計	29	100.0

Q 3 あなたは「楽しい科学教室」の日にちをどう思いましたか？（ はひとつ）

	選択肢	回答数	構成比
1	他の日がよい	0	0.0
2	今のままでよい	28	96.5
3	無回答	1	3.5
	計	29	100.0

Q 4 あなたは「楽しい科学教室」の時間帯をどう思いましたか？（ はひとつ）

	選択肢	回答数	構成比
1	他の時間帯がよい（欄外別記）	4	13.8
2	今のままでよい	25	86.2
3	無回答	0	0.0
	計	29	100.0

（別記） 午前9時30分～ 1人 午後2時30分～ 3人